

# 女性研究者のためのフェローシップの創設

—アメリカ女性大学人協会（AAUW）とフェローシップ・キャンペーン—

坂本辰朗

『教育学論集』第68号

(2017年3月)



## 女性研究者のためのフェローシップの創設

—アメリカ女性大学人協会 (AAUW) とフェローシップ・キャンペーン—

坂本 辰 朗

### 1. 本論文の基本的問題設定

1920年代は、アメリカ合衆国における史上最初の高等教育一大拡張期であった。これは、女性の高等教育機会についても真であり、学士課程学生全体に占める女性学生の比率は1920年に47%を超えるに至る<sup>\*1</sup>。大学卒業女性たちの組織、アメリカ女性大学人協会（以下、AAUW）のある執行役員が、当時、述べたように、もはや学士課程へのアクセスについては男性と肩を並べようになったが、大学院以降の女性の学術的達成がそれに追いついていないという状態であった。AAUWはその結成の目的を、①女性の高等教育のスタンダードの維持と向上、②女性へのスカラシップ、フェローシップの支給、の二つを挙げていた。後者についていえば、今や、学士課程学生を対象としたスカラシップ以上に、フェローシップ制度の充実が目指されるべきであった。しかしながら、以下に見るように、AAUWが支給するフェローシップは、量的にも質的にも見劣りのするものであった。

本論文では、1920・30年代のAAUWによるフェローシップ制度改革をとりあげ、以下の研究課題を設定する。

- (1) AAUWが、新たなフェローシップ制度を創設するにあたって、そこでは、どのような優先的関心が働いていたのか。また、誰が、キーパーソンであったのか。
- (2) フェローシップ制度改革は、AAUWの活動に、どのような帰結をもたらしたのか。それは、当初の優先的関心に応えるものであったのか。

主要史料は、Records of the American Association of University Women, 1881-1976. (Library of Congress 所蔵)、Records of the American Association of University Women. Massachusetts State Division, 1930-1976. (Schlesinger Library, Radcliffe Institute, Harvard University. 所蔵) および Records of the American Association of University Women. Boston Branch, 1886-1978. (同前) である。

### 2. 1920年代における新たな全米的フェローシップ制度の興隆

第一次大戦後、アメリカ合衆国では、国家を世界の科学先導国へと飛躍させるべく、

大掛かりな科学研究振興政策が始動した。その一つが、全米的なフェローシップ制度の創設であり、その最大の成果が全米研究評議会（NRC）によるナショナル・リサーチ・フェローシップ（1919年）であった。

筆者が別の機会に明らかにしたように、ナショナル・リサーチ・フェロー制度が創設された際に決定された、その究極の目的とは、「アメリカ合衆国の科学研究体制の革新を、大学における研究の力量を向上させることによって達成する」ことであった。そのために、一方で、優れた研究能力をもつ若手人材の発見と支援が、他方で、そのような人材を、その力量がもっとも発揮できるような国内の大学に結集させ、それをもって、確固たる自然科学・医学の研究拠点（すなわち、研究大学）を形成することであった。ロックフェラー財団からの巨額の資金援助によって可能になったこの制度は、10年も経過しないうちに学术界でその評価を確立した<sup>\*2</sup>。

ナショナル・リサーチ・フェローシップは、今日で言うポスト・ドクトラル・フェローシップ（PDF）であったから、応募するにはすでに Ph.D. を取得していなければならなかった。年間給与額は最低で 1,500 ドルであったが、審査委員会の判断で、能力、業績に応じて、より高額な給与が支給された。事実、初年度（1919年）採用の 13 名のフェローの給与を見ると、1,500 ドルが 5 名、2,000 ドルが 3 名、2,300 ドルが 3 名、2,800 ドルが 1 名、3,000 ドルが 1 名と、むしろ標準給与額以上を支給された者が大半であった。

ナショナル・リサーチ・フェローシップが、当時、関係者たちに、成功事例のひとつとみなされたことは次の事実に明らかである。すなわち、同じように、「ベスト・アンド・ブライテストを発見し、彼らに創造の自由をあたえる」<sup>\*3</sup> ことをめざした全米的な制度が、次々と創設されたことである。全米科学アカデミーは、1923 年、社会科学リサーチ・カウンシルを設立した。名称のとおり、これは、全米研究評議会の社会科学版である。そして、ローラ・スベルマン・ロックフェラー財団の援助のもと、1925 年から、フェローシップを授与し始めた。グッゲンハイム財団は、1925 年、グッゲンハイム・フェローの制度を開始した。周知のように、これは、あらゆる学問分野を、さらに大学研究者だけでなく芸術家をも対象にした支援政策であった。さらには、全米諸学会評議会（ACLS）は、1930 年、これもまた、ロックフェラー財団からの援助によって、人文学分野を対象としたフェローシップを授与し始めた<sup>\*4</sup>。

### 3. 全米的フェローシップの嚆矢としての AAUW フェローシップ

もっとも、全米的フェローシップの嚆矢という点では、実は、AAUW が 1888 年に開始したヨーロッパ・フェローシップにそれを求めなければならない。この制度は、当時、アメリカ合衆国内では研究の機会を著しく制限されていた女性研究者に、ヨーロッパの大学で博士号学位を取得することを支援するものであり、その歴史的意義は十二分に評価されてよい。

しかしながら、第一次大戦後、前出のような新構想の全米的フェローシップの創設を前に、AAUWもまた、そのフェローシップ制度の一大改革に取り掛からざるをえなくなった。というのも、これらの新制度は、少なくとも公式には、男性、女性双方の研究者に等しく開かれていた上に、今日、フェローシップという用語が意味するように、博士号取得者に十分な経済援助を保証し優れた研究機会をあたえるという、かつてのAAUWのそれに比べて、応募資格、待遇、期待される成果のどれをとっても、革新的な高水準にあったからである。

反面、容易に推察できるように、前出の新たな全米的フェローシップ制度は、女性研究者には敷居の高いものであった。ナショナル・リサーチ・フェローについてみれば、制度が開始されてから12年の期間（1918年-1931年）で、物理学・化学・数学フェローシップ委員会への申請者は全部で803名であり、新規採択者は314名、採択率は約39%であったが、このうち女性の採択者はわずか8名（物理学3名、化学4名、数学1名）であり、文字どおり、微々たる数であったのである<sup>\*5</sup>。

#### 4. AAUW と国際女性大学人連合

「創造的な学術と研究を産み出す並はずれた可能性を持つ女性」<sup>\*6</sup>が受給するべきフェローシップ制度をどのように構築すべきなのか。AAUWの新たなフェローシップ制度への模索にとって大きな転機となったのは、国際女性大学人連合（International Federation of University Women 以下、IFUW）へのAAUWの加盟と、IFUWが創設しようとした国際フェローシップのアイデアであった。この国際フェローシップとは、IFUW加盟国の大学卒女性が、出身国以外での学習・研究を可能にするものである。

IFUWの創立は1919年7月、ロンドンにおいてであり、翌1920年ロンドンにて最初の総会を開催、五か国の代表が集った。第二回総会が1922年パリ（16か国が加盟）、第三回総会が1924年オスロ（当時のクリスチャニア）であり、この時点で20か国が加盟した。

IFUWの正史は、1918年の秋のある日の夕刻、当時、コロンビア大学バーナード・カレッジのデーンであったギルダースリーブ（Virginia Crocheron Gildersleeve, 1877-1965.）が、渡米中の二人の英国人——ロンドン大学のスパージョン（Caroline Spurgeon, 1869-1942.）とプリンガム大学のシジウィック（Rose Sidgwick, 1877-1918）に対して、女性大学人の国際組織を提案するところから開始されている<sup>\*7</sup>。すなわち、ギルダースリーブこそIFUW結成の立役者のひとりであった。

IFUWとAAUWは、その創立とその後の発展が、コインの表裏と表現できるほど、密接な関係にあったのである。IFUWは、各国の女性大学人の連合組織であるが、この場合、各国を代表する女性大学人の組織はひとつに限られる。ところが、アメリカ合衆国の場合、IFUW結成直前の時点で、二つの女性大学人の組織が存在した。すなわち、1882年にボストンで結成された女性大学卒業生協会（Association of

Collegiate Alumnae) と 1903 年創設の南部女性大学人協会 (Southern Association of College Women) であった。1921 年 3 月、これら二つは合併し AAUW となるが、それは最初から、IFUW 加盟が目的であったのである<sup>\*8</sup>。以降、AAUW は、そのジャーナルの毎年の 10 月号を国際関係特集に充てるなど、IFUW との関係強化していく。IFUW への支援を訴えるギルダースリーブの論調は、最初から一貫して理想主義的な色彩を強く帯びていた。たとえば、1924 年 10 月号のジャーナルの巻頭論文で、IFUW の第 2 代会長に就任したばかりのギルダースリーブは、IFUW の創設から現在までの歩みをたどったあと、IFUW は今や「揺籃期を終えて、事実上、完全な成熟期に入った」とした上で、「ドイツからは未だ、女性大学人の全国組織は参加していないが、時期大会までに、ドイツ女性たちが組織をつくり参加を申請することで、現在の私たちの連合が抱えている重大なギャップが埋まることを切に希望するものである」<sup>\*9</sup>としている。さらに、IFUW 内につくられた新委員会の中でも、国際連盟 (League of Nations) との協調を進める委員会の活動がもっとも重要であり、この委員会が、AAUW の国際活動、とりわけフェローシップに関する情報を求めている、とする。また、IFUW は国際フェローシップに関する委員会も創設しており、国際フェローシップのための 100 万ドル基金計画を遂行しようとしている。「真に将来性があるすべての女性学術者を探し出し、彼女にその才能を開花させるあらゆる機会を提供しなければならない」として、「国際フェローシップがめざすのは女性による学術という大儀のためだけではない。それは同時に、他のどんな方法よりもすぐれて、国際理解という大儀のためになるのである」とするのである<sup>\*10</sup>。

この言明の背後にあるのは、第一次大戦以降のアメリカ合衆国の国際主義、とりわけ、AAUW の幹部たちにとっては、彼女らの“盟友”であったウィルソンが掲げたそれであろう。しかし、彼女たちは、よりよき国際関係の構築と世界平和の実現を、女性たちが大学おける研究に積極的に参画していくことで初めて可能になると考えたのである。

IFUW が提案した国際フェローシップ制度の創設では、各国の女性大学人の組織に何らの分担金を課すことがなかったために、この時点でそれは、その実現性が希薄な、ひとつのアイデアにすぎなかった。このことは逆に、当時の IFUW で最大の会員数を擁していたアメリカ合衆国の AAUW にとっては、その実現がひとつの責務となったわけである<sup>\*11</sup>。

## 5. スカラシップからフェローシップへ——AAUW 政策の重心移動

AAUW は、規模がさまざまな、全米に散在する支部と呼ばれる地方組織の緩い連合体であり、会員はまず、この支部に属し、日常の活動もまたこの支部活動にあった。すでに見たように、AAUW はその活動目標の一つとして、女性へのスカラシップ、フェローシップの支給を挙げているが、従来、スカラシップとフェローシップでは、

まず、学士課程の学生を支給対象の中心にした前者が注目されるのはやむをえなかった。AAUW 本部は、会員ひとりあたりの会費の八分の一をフェローシップ基金にプールしていたが、支部が独自に募金活動をおこなったスカラシップ、フェローシップも存在し、スカラシップの総額は、1920年代なかばでフェローシップ資金の実に約9倍に達していた。さらに、1920年代半ば、AAUW が運営していた全米フェローシップ制度は、研究だけでなくさまざまな目的を持つものを合わせて全部で11あったが、このうち、受給条件としてPh.D.取得を課していたのはアリス・フリーマン・パーマー・フェローシップのみであった。そのパーマー・フェローシップも、1917年の時点で年間支給額わずか500ドルであり、この年は、支給が決定した候補者に辞退され空席になってしまった。翌年からその支給額を1,000ドルに引き上げたものの、たちまち資金が枯渇しその維持が困難になり、結果として1920年からは隔年支給とせざるをえなくなったのである。

AAUW の幹部たちは、以上のような惨憺たる現状に強い危機感を抱いた。1926年、AAUW フェローシップ委員会の委員長は、「現在、必要とされているのは、小規模の基金を凡庸な候補者に支給することではない。私たちは慈善団体ではなく教育団体である」<sup>\*12</sup>とした。さらに、当時のAAUW 会長のラインハート (Aurelia H. Reinhardt, 1877-1948. 当時はミルス・カレッジ学長) は言う。以前にも増して、今や、能力ある女性に研究を可能にすることが、私たちのみが果たせる任務となってきている。「スカラシップはますます、私たちの担当分野ではなくなってきている。というのも、スカラシップは今や、数え切れない組織団体が支援しているのに、女性へのフェローシップ支給となると、私たちがやらないと、まったく支給されないということになるであろうからである」と。彼女は、「協会としては、能力ある者と能力ない者とを、もっとはっきりと区別すべきである」として「当該学生の貧しさということが、第一に考慮されてはならないのである」とまで断言する<sup>\*13</sup>。

1927年、ラインハートを継いでAAUW 会長となったウーリー (Mary E. Woolley, 1863-1947. 当時はマウント・ホリヨーク・カレッジ学長) の構想は、さらに壮大である。彼女は言う。AAUW の会員がその所属する支部へアイデンティティを求めることは理解できるが、今や私たちは、全米的組織としての一体感を持つべきである。さらに私たちは、過去に私たちがなしてきた成果を振り返るだけでなく、将来の世界に私たちは何ができるのかを考えるべきである。「IFUW の会員であるということをとおしての、私たちの協会がおこなえるアピールほど強力なものはないであろう」。「『団結する』ことが、困難を解決するもっとも実際的な方法であることはすでに証明されている。他国からやってくるすべての思慮深い学生こそ、国際理解・同情・善意にとって、最大の資産である」<sup>\*14</sup>とした。この、「スカラシップからフェローシップへ」というAAUW の政策の重心移動は、1920年代半ば以降、決定的となっていく。

## 6. 新たなフェローシップ制度のための基金創設キャンペーンと AAUW の組織再編成

IFUW が創設しようとした国際フェローシップのアイデアを、AAUW 独自のフェローシップ基金創設へと変貌させたのが、1929 年、ウーリーの後継者として AAUW の会長へと就任したギルダースリーブであった。AAUW の力によって 100 万ドル基金を設置、これによって、IFUW 国際フェローシップと AAUW 国内フェローシップの双方を創設し、「創造的な学術と研究を産み出す並はずれた可能性を持つ女性」を支援すること——これが、AAUW 会長に就任したギルダースリーブの構想であった。

100 万ドル基金の資金調達にあたって、AAUW 本部がまずやらなければならなかったことは、フェローシップ基金募集のためだけにとどまらず、AAUW という組織全体を、より近代的な組織に再編成することであった。ウーリー会長自身のことばを引用するならば、これからの AAUW の運動は、「まずは、効率性ということが考慮されなければならない」（傍点は原文ではイタリック）のであり、この効率性とは、二つの C、すなわち、Centralization（中央化）と Concentration（集約化）を意味する。中央化とは、各支部の自律性は認めつつも、AAUW 本部が確固とした統率力を発揮することである。集約化とは、組織運営に必要な各種委員会の数をできるだけ減らし、常設委員会に権限を集約することである<sup>\*15</sup>。

1929 年末になり、ようやく、フェローシップ 100 万ドル基金キャンペーンのための組織の概要が整うことになる。AAUW は、全国をユニットと呼ばれた単位に分割し、それぞれのユニットが、①国際フェローシップ、国内フェローシップのどちらを担当するのか、②目標額、③当該フェローシップの名称、の三つについて自主的に決定し、それを本部が統括するという体制を創り上げた。それぞれのユニットが 3 万ドルの基金を集めた段階で、各フェローシップ制度の開始が可能とした。国際フェローシップについては、その執行はすべて IFUW に委譲する——ただし、フェローシップに、たとえば、学問分野の指定・年齢制限などの制約をつけないことを条件で——という構想であった。ユニットは、都市単位で結成したもの（ボストン・フィラデルフィア・ニューヨークの三都市）から州単位、いくつかの州にまたがる地区単位など、この時点で 17 ユニットが結成された<sup>\*16</sup>。

目標額は各ユニットが自主的に決め、ワシントン本部が各支部に割り当てることはせず、さらに目標達成までの期限も定めていないわけであるから、本部の仕事は、毎年、ユニットが達成した募金額を公表するだけのように見える。しかしフェローシップ委員会の議事録・本部への報告文書を見るならば、実際には、AAUW ワシントン本部のフェローシップ委員会が、キャンペーンの原動力であり、その強力な統率力なしにはキャンペーンは進まなかった。このフェローシップ委員会は、支部が立地する州管区をとおして、組織的募金活動を働きかける。各支部には、フェローシップ委員会の委員長名で、寄付獲得のさまざまな手法を通知しており、そのためのリーフレットを作成している。また、委員長は、各支部から上がってきた、寄付が期待される人物の



名前を集約し、直接、書簡や資料を送るなど、きわめて精力的な働きかけをしている<sup>\*17</sup>。州管区に対して、管轄支部の集金額総計、支部の参加率だけでなく、会員一人あたりの獲得金額までを報告するように求めており、その数値は毎年、AAUWのジャーナルにて公表された。さらには、後にボストン支部の活動を検討する際に明らかになるように、場合によっては、州管区・支部に強力な“指導”をおこなった。

寄付獲得の手法としては、通常、考えられるような講演、コンサート、茶話会、クリスマスカードの販売、など、実にさまざまな手法が使われている<sup>\*18</sup>。1934年、ミネソタ支部の一会員が約二年の研究を費やして作成したConquest of a Continentと題した歴史ピクトリアル地図の頒布は、469支部がこれを利用し、約7,500ドルの純益を生み出すことになった<sup>\*19</sup>。

全米研究評議会によるナショナル・リサーチ・フェローシップとは異なり、AAUWには特定の大口スポンサーがついていたわけではなかったから、100万ドル基金の資金調達も、基本的に末端の各支部の会員たちの募金活動に拠らざるをえなかった。寄付にあたっては、AAUW側は「まったく制約をつけない」フェローシップの創設を目指したために、国際フェローシップか国内フェローシップのどちらにするかということ以外に条件をつけることはできなかった。これは、他のフェローシップとの差別化、特に、女性へのフェローシップということを考慮すれば当然の措置であったのかもしれないが、ある場合には逆に、寄付を妨げる要因にもなった<sup>\*20</sup>。

## 7. クルセード・フェローシップの創設

基金創設キャンペーンが開始されたものの、各地区・支部の足並みは揃わなかった。そもそも、獲得寄付の多寡以前に、支部の参加率が100%に到達しないことに加え、ユニットの中には、国際フェローシップ、国内フェローシップのどちらを担当するのかさえ、態度を明確にしないものがあったのである。1935年になり、ようやく、すべてのユニットが国内/国際の区分を明確化し、国内フェローシップ13、国際フェローシップ8、計21ユニットとなる。このうち、10ユニットが4万ドルを、11ユニットが3万ドルを募金目標とした。

1934年度は、フェローシップ基金に大きな変更が加えられる。クルセード・フェローシップの立ち上げであった。これは、各ユニットで、1万ドルを超えた基金を集めたユニットから、その運用利潤を供出してもらい、それを全国でまとめて、国内、国際の二種類のクルセード・フェローシップ（いずれも、1,500ドル）を授与するというものである。この時点ではどのユニットも、目標金額（3万ドルあるいは4万ドル）を達成していないため、AAUWの新フェローシップ制度は開始されていない。クルセード・フェローシップはその先駆けとなるものであった。しかしながら、このフェローシップは、その条件として、前者は、アメリカ国内あるいは海外に居住するアメリカ人女性で「大学院での学習あるいは研究をめざす者」であり、かつ「これまでに

専念してきた課題において卓越した業績が上げられる者」ということであり、後者は、「国際女性大学人連合に所属するすべての国の女性」という点が異なるだけで、あとは同じである。すなわちこれは、厳密に言えば、AAUW が当初は目指していたはずのポスト・ドクトラル・フェローシップではなかった<sup>\*21</sup>。

## 8. 地方支部の対応——ボストン支部のケース

ボストンは、AAUW の発祥の地であったということで、その支部は AAUW の中で最も古いものに属し、多くの会員が在住していたために、マサチューセッツ州管区の中でもボストンのみでユニットを構成することになった。

ボストン支部には他の支部にはない、いくつかの特徴があった。その第一は、上述のように、最古の支部のひとつであったから、組織として成熟しており、活動も多岐にわたり、支部独自のスカラシップとフェローシップも設立していた。当然、募金活動は日常活動として常設委員会が置かれていた。もうひとつの特徴は、前述の AAUW における国際主義への模索が、ボストン支部においては、さらに鮮明かつ具体的に見られたことである。

第一の募金活動についてみれば、会員一人あたりの獲得金額もつねに一定以上を示し、年々、着実に増加した。ただし、今回のフェローシップ 100 万ドル基金キャンペーンについては、手酷い失敗を経験しただけでなく、どちらかと言えば実現可能性の乏しい計画立案に終始した。1931 年 10 月、当時、ヨーロッパではロシア劇団によるメーテルリンクの「青い鳥」が好評であったために、ボストン支部がスポンサーになって、その米国初演を計画したが、資金を集めるどころか 724 ドルという巨額の赤字を残すことになり、これが原因でその年の支部年報が発行不能になった<sup>\*22</sup>。また以下に見るように、ウーリー国際フェローシップ創設キャンペーンもいよいよ 1 年余となった 1936 年 4 月、ウーリー学長に献呈する記念サイン帳にひとり 2 ドル献金してもらって 5,000 人の署名を集めれば 1 万ドルとなるという壮大な計画が提案されるが、実現しなかった<sup>\*23</sup>。

理事会の議事録には、ボストン支部の国際主義への志向をあらわす事案がいくつも登場している。たとえば、1930 年のロンドン海軍軍縮会議に関連して、ボストン支部理事会は、支部長名で、あらゆる軍艦の削減を求める書簡をフーバー大統領に送るという決議を採択している<sup>\*24</sup>。また、1934 年 3 月には、当時すでに IFUW 内でおこっていた、IFUW からドイツ女性大学人協会を締め出す動きに絶対反対を表明する決議をおこない、AAUW ワシントン本部に送付している<sup>\*25</sup>。

1934 年末、ボストン支部のフェローシップのための募金活動に転機が訪れる。1937 年 6 月までに 4 万ドルの基金を集めるために、別個に募金活動をおこなっていたノース・ニューイングランド・ユニットと合併することを決定した。これは、1937 年 6 月には、20 世紀のはじめより長きに亘ってマウント・ホリヨーク・カレッジの学長

を務めていたウーリーが退任するために、それを記念して、合同でウーリー国際フェローシップを創設するためであった<sup>\*26</sup>。創設趣意書は以下のように述べている<sup>\*27</sup>。

ノース・ニューイングランドが21ユニット中、協会の中で最初にフェローシップを設立するのはまことに時宜にかなったことである。というのも、協会自体がノース・ニューイングランドの女性たちによって設立されたわけであり、私たちはそのパイオニア精神を受け継ぐという誇りをもつものである。また、ノース・イングランドほど、これまで協会のフェローシップに直接的にお世話になった地区はない。1889年以来、協会のフェローシップを受給した220人の女性のうち、ノース・ニューイングランド出身が実に35人なのである。

1937年6月までの目標額達成はならなかったが、3万ドルを原資に、ウーリー国際フェローシップが1940年度から開始されることになった。

AAUW本部のフェローシップ委員会はまた、ボストン支部に強力な“指導”もおこなっていた。1936年2月、ボストン支部のグラジュエイト・フェローシップ委員会の委員長は、ワシントンDC本部から、現時点では100万ドル基金フェローシップの方が重要であるから、グラジュエイト・フェローシップのための活動は止めてほしいとの要請があったことを理事会に報告している。理事会で議論した結果、今手元にある、グラジュエイト・フェローシップをワシントン本部に委譲する案は否決、また、ウーリー国際フェローシップに組み入れる案にも反対があり、最終結論において、手元のグラジュエイト・フェローシップのための基金は信託預金として、このための募金活動は一時停止とすることが決定する<sup>\*28</sup>。

## 9. フェローシップ制度改革の帰結

こうして、1939年末の時点で、AAUWは新しいフェローシップを含めて、全部で13の研究フェローシップを設立し、翌1940年度から授与できることになった。このうち、100万ドル基金からのフェローシップは全部で9つ（内訳は、6つのユニットが提供するフェローシップに加えて3つのクルセード・フェローシップ。支給額はすべて1,500ドル）となった。1939年度はまた、募金総額が525,945.58ドルと、目標額100万ドルの50%を突破した。フェローシップへの応募の条件は「通常は (*in general*, 原文はイタリック)、Ph.D.取得のためのコースワークを2年間修了した者、またはすでに学位を取得した者」であり、Ph.D.取得をフェローシップ受給の基礎資格にすることは遂にできなかった。これは、この時代の女性研究者への支援としてはやむをえないことであり、むしろ、「能力ある女性に研究を可能にする」ためには必要なことであった。

しかしながら、フェローシップ制度は、この時点で、すでに制度上の軋みを見せていた。

ひとつには、この制度は、元来、運用利回りを年5%で計算して設計されたものであったが、1930年代末にはそれが3%近くまで落ちた結果、フェローシップ年額1,500ドルの支給は、3万ドルの基金ではもちろん、4万ドルでも難しくなったのである<sup>\*29</sup>。理事会の議事録には、次のような議論が記されている。たとえ4万ドル集まっても、毎年、授与するためには補填しなければならない。不足を補填する方式で行くのか、それとも、1,500ドルの運用利回りを生んだ年のみ、フェローシップを授与するのか。理事会としては補填方式を支持したい<sup>\*30</sup>。ちなみに、前述の全米研究評議会による1940年度のナショナル・リサーチ・フェローは、最低で2,000ドルが支給されており、1,500ドルというのは、もはや一昔前の標準給与になってしまっていたのである<sup>\*31</sup>。

さらに、国際フェローシップについては、本来、IFUW 会員の女性に「出身国以外での学習・研究」をおこなわせるためのものであったが、今やその前に「もしも可能ならば (if possible)」という一句を挿入せざるをえなくなった。留学・在外研究どころか、海外渡航そのものが困難になったからである。これに加えて、以下に見るように、本人の意思とは無関係に海外移住を強制されたケースも頻出した。

1940年のラインハート国際フェローシップ（サウス・パシフィック地区提供）の受給者となったオーストリア女性は、本来、本国の女性大学協会（AAUW）の人物証明（endorsement）が必要なのであるが、その本国が併合（Anschluss）によってすでに消滅しているため、この手続きを省略せざるをえなかった。この女性は、もともとウィーン大学で教育・研究をおこなっていたのであるが、ユダヤ系であったがために、ポストを追われていた。アメリカ合衆国のパデュー大学での研究を希望していた。さらに、同年は、前述のウーリー国際フェローシップの最初の授与年であったが、受給者となった女性はロシア出身であったが、故国を追われ、ドイツに移住、ベルリン大学で学んだものの、ユダヤ系であるためにドイツを去らざるをえず、プラハの大学で学位を取得したものの、三度、国外に退去した。フェローシップ申請時はイギリスの女性大学人協会の会員であったのである。ちなみに、ウーリー国際フェローシップの授与式では、同時に、IFUW-AAUW 合同会議が開催されたが、IFUW 側から出席できたのは、すでにアメリカ合衆国あるいはカナダで教育・研究をおこなっていたIFUW 会員のみであり、ヨーロッパから渡米予定の4人は渡航不能ですべて欠席となった。

1920・30年代のAAUW フェローシップ・キャンペーンの意義は、AAUW フェローシップ委員会の1938年末時点での、理事会宛報告書の以下の引用に要約されているといえよう。

本協会の会長ならびに幹部役員たちは、フェローシップ基金プログラムを、全支部に共通な同一の関心であるとする。すなわち、私たち823支部の結束を促進する共通の関心への価値を強調する。フェローシップの募金はつねに、本協会における長期にわたる教育的

プロジェクトであるとみなされてきた。すなわち、フェローシップ基金を積み上げるということだけに価値があるのではなく、最高水準の学術の価値について理解を促進し、研究への女性の貢献へ関心を促す教育的プロジェクトなのである（傍点は引用者）\*<sup>32</sup>。

100万ドル基金の完遂は予定期間を大幅に超過し、第二次大戦後の1954年になったが\*<sup>33</sup>、この基金キャンペーンは、フェローシップの重要性を全国の会員に認識させることとなり、新たな国際フェローシップを実現させるだけでなく、国内フェローシップについても、宿願であった応募資格、待遇、成果達成のそれぞれの刷新を実現した。とりわけ、基金キャンペーンはまた、戦間期のAAUW組織へ一大統率力をあたえることになった。

付記：本論文は、2015-18年度科学研究費補助金による研究「アメリカにおける女性研究者を対象としたポスト・ドクトラル・フェローシップの研究」（基盤研究(c)、坂本が代表）の成果の一部である。

## 注

- 1 Barbara Miller Solomon. *In the Company of Educated Women* (Yale University Press, 1985), 63.
- 2 拙論、「女性研究者とナショナル・リサーチ・フェローシップ」2016年度アメリカ教育史研究会・全体会合宿（コープイン京都・2016年1月10日）2016年度アメリカ教育史研究会・全体会合宿（コープイン京都・2016年1月10日）
- 3 Michael Lazerson, “Whither America’s Fellowships?” *Change* 30(3): 32-33.
- 4 Commission on Human Resources, National Research Council. *Postdoctoral Appointments and Disappointments: A Report of the Committee on a Study of Postdoctorals in Science and Engineering in the United States* (NRC, 1981), 21-23.
- 5 “Preliminary Report of the Fellowship Board in Physics, Chemistry, and Mathematics National Research Council for the period 1919 to 1930 Inclusive.” Typewritten MSS. NAS-NRC Archives, Central File, FELLOWSHIPS: Research Fellowship Bd in Physics & Chemistry General 1930.
- 6 このことばは、当時のグッゲンハイム財団の事務局長であったモウ（Henry Allen Moe, 1894-1975）が、AAUWのノース・アトランティック地区に招かれ「女性へのフェローシップ」と題した講演をおこなった際に登場する。Henry Allen Moe. “Fellowships for Women,” *AAUW Journal* 19(3), April 1926, 12. AAUWはそのフェローシップ制度の改革にあたって、全米研究評議会のナショナル・リサーチ・フェローシップはもちろん、グッゲンハイム・フェローシップも視野にいれ、「これらのフェローシップは私たちにとっても重要な機会である。というのも、これら

は、私たちのもっとも上級のフェローシップ——アリス・フリーマン・パーマー、バーリナーの両フェローシップ——の目的の一部を満たすものである」としていた。Agnes L. Rogers. "This Matter of Fellowships," *AAUW Journal* 20 (1), October 1926, 15. なお、AAUW の機関誌は、何度かそのタイトルを変更しているが、ここではすべて、*AAUW Journal* と略記する。

- 7 Edith C. Batho. *A Lamp of Friendship, 1918-1968: A Short History* (International Federation of University Women, 1968), 1. 本書以降、IFUW はその通史を公表していない。IFUW の歴史を扱った近年の業績のうち、もっとも優れたものは、Marie Therese Sandell. "International Sisterhood?: International Women's Organisations and Co-Operation in the Interwar Period." Ph.D. Thesis, University of London, 2007. である。
- 8 本論で以下に見るように、彼女はその回顧録で、この合併について、最初は果たして、南部女性大学人協会が合併を受けてくれるかどうか、大いに不安であったが、実際に南部女性大学人協会の会長に打診すると、実にすんなりと決まってしまう、驚いたとしている。Virginia Crocheron Gildersleeve. *Many a Good Crusade: Memoirs of Virginia Gildersleeve* (Macmillan, 1959), 135.
- 9 Virginia C. Gildersleeve. "The International Federation of University Women," *AAUW Journal* 18 (1), October 1924, 1.
- 10 Gildersleeve. "The International Federation of University Women," 2.
- 11 IFUW は、各国の女性大学人の組織に、その会員数に応じて、会費の負担を求めていたため、当然、AAUW が最大の資金提供者であった。他方で、IFUW 総会へ出席する投票権をもつ各国代議員数は、会員数に応ずる単純な比例配分ではなく最大5名としていたので、AAUW は会員数から見ればきわめて少数の代議員しか送り込めなかったことになる。この事態の変革——アメリカ合衆国の代議員数を拡大すること——は、AAUW の理事会で討議されたが、最終的に、元のままとする決議が行われている。
- 12 Agnes L. Rogers. "This Matter of Fellowships," *AAUW Journal* 20 (1), October 1926, 15.
- 13 Aurella Henry Reinhardt. "Our Increasing Purpose," *AAUW Journal* 20 (3), April 1927, 68.
- 14 Mary E. Woolley. "Greetings from Our New President," *AAUW Journal* 20 (4), June 1927, 99.
- 15 Mary E. Woolley. "Achievement Versus Possibility," *AAUW Journal* 22 (4), June 1929, 171.
- 16 Report of the Fellowship Appeal Committee to the Board of Directors, November 19, 1929. AAUW Archives. Reel 129: VI: 25: 763. AAUW アーカイブズ

- 文書はその全体がマイクロフィルム化されており、これを史料として使用する。この場合、史料の所在の表記は基本的に「リール番号：コレクション区分：ボックス：フォルダ：フレーム番号」という形式を使用する。
- 17 たとえば、フェローシップ委員会は1934年度下半期（6月1日-12月1日）、個人宛書簡だけで実に432通を送っている。Fellowship Funds, Jan 9, 1929-c.1953.n.d. Fellowships Program Records, 1921-1976, AAUW Archives.
- 18 Katherine S. Arnold. "Branch Scholarships," *AAUW Journal* 18(2), January 1925, 12-13.
- 19 "The Bulletin Board," *AAUW Journal* 28(1), October 1934, 49. なお、この作品はそのタイトルから推察できるように、露骨な西部「開拓」路線に貫かれ、しかも、女性がまったく登場しない歴史地図である。当時はすでに、メアリ・R・ピアードの *America through Women's Eyes* が刊行されていた。もっとも、ピアード自身はこの作品について、好意的なコメントを寄せている。なお、AAUWはそのジャーナル等をつうじて、戦前は一貫して、ピアードの業績を高く評価している。たとえば、女性アーカイブズ世界センターの設立についても、その直後にジャーナルで大きく取り上げている。*AAUW Journal* 29(2), January 1936, 101-102.
- 20 1936年1月、女性だけのツアーを専門にしていた Women's Rest Tour Association（19世紀末に設立された著名な女性団体 Women's Education and Industrial Union の一部）から1万ドルの寄付の申し出があったが、基金化にあたってつけられた条件は AAUW 理事会が受け入れるものではなかった。Report of the Committee of Fellowship Endowment to the Board of Directors, November 16, 1936. AAUW Archives. Reel 34: IV: A: 1(1936): 983; Dorothy B. Atkinson (Chair, Committee on Fellowship Endowment) to Mina Carter, May 26, 1936. Fellowships Program Records, 1921-1976, AAUW Archives. Reel 129
- 21 もっとも、初年度のフェローはラドクリフ・カレッジで Ph.D. を取得した女性、翌1935年度はイェールで Ph.D. を取得、翌1936年度はジョージ・ワシントン大学ロースクール出身の法律家、1937年度、1938年度はそれぞれ、イェール大とコロンビア大の大学院生が受給している。
- 22 Executive Board Meeting Minutes, November 19, 1931. Box 4, Folder IIB.18. Records of the American Association of University Women. Boston Branch, 1886-1978. Schlesinger Library, Radcliffe Institute, Harvard University.
- 23 Executive Board Meeting Minutes, April 11, 1936. Box 4, Folder IIB.22.
- 24 Executive Board Meeting Minutes, March 10, 1930. Box 4, Folder IIB.16.
- 25 Executive Board Meeting Minutes, March 19, 1934. Box 4, Folder IIB.20.
- 26 Branch Meeting Minutes, December 12, 1934. Box 4, Folder IIB.21.
- 27 "The Mary E. Woolley Fellowship Completed by 1937." Typewritten MSS.

- Box 2, Folder IB:1. Records of the American Association of University Women. Massachusetts State Division, 1930-1976. Schlesinger Library, Radcliffe Institute, Harvard University.
- 28 Executive Board Meeting Minutes, February 17, 1936. Box 4, Folder IIB.22. このように、既存のフェローシップ基金の充実以上に、新しいフェローシップへのキャンペーンを重視するという方針は、すでに 1929 年 4 月の時点で、AAUW 理事会が議論していた。すなわち、①既存のフェローシップの受給額を増やすよりもフェローシップ新設の方が、キャンペーン継続に説得力がある。②新フェローシップは、他団体が授与する分野限定のフェローシップの数が増えているので、AAUW としては分野を指定しない方がよい、とするものである。Minutes of the Meeting of the Board of Directors, April 13, 1929. Reel 34: VI: 25: 746. AAUW Archives.
- 29 Report of the Fellowship Appeal Committee to the Board of Directors, November 8, 1938. IV:A: 1 (1938): 678. AAUW Archives.
- 30 General Director's Calendar, November 8-11, 1938
- 31 *Report of the National Academy of Sciences Fiscal Year 1938-39* (U.S. Government Printing Office, 1939), 28.
- 32 Report of the Committee on Fellowship Endowment to the Board of Directors, November 8, 1938, 6. IV:A: 1, 680.
- 33 1953 年 6 月のミネアポリス年次大会にて完遂を発表。ただし、この時点では、物価の変動等のため、当初の予定どおりにフェローシップ支給をおこなうことはもはやできず、AAUW は基金の更なる上積みさせざるをえなかった。Ruth W. Tryon. *Investment in Creative Scholarship: A History of the Fellowship Program of the American Association of University of Women 1890-1956* (AAUW, 1957), 192-194.



# **Fellowship System for Women Researchers: American Association of University Women's Effort for the Creation of a New Fellowship System.**

**Tatsuro Sakamoto**

This paper aims to elucidate the reforms in the fellowship system for women researchers and the creation of a new fellowship system by the American Association of University Women (AAUW) in the 1920s and 1930s. The research questions are as follows:

- (1) What was the priority concern for AAUW in reforming the fellowship system? Also, who was the key person involved in creating the new fellowship system?
- (2) What changes resulted in the activities of the AAUW as a result of the reforms in the fellowship system and the creation of new fellowships? Did this effectively address the original concerns?

Formed at the end of the nineteenth century, the AAUW established the European Fellowship for women researchers in 1888. At the time, this system supported women who had remarkably restricted opportunities for research within the United States and wished to obtain doctoral degrees at European universities. This scheme had deep historical significance.

The 1920s was the first expansion period of higher education in the history of the United States. This was true also for women's higher education opportunities, and the proportion of women amongst undergraduate students reached 47% in 1920. At this point, although women's access to undergraduate courses came into line with men's, the academic achievements of these women after graduation were still much lower. Therefore, it can be said that fellowships for women were an increasing necessity. However, the AAUW fellowship system was no longer fit for purpose. The National Research Council (NRC), the Guggenheim Foundation, and others had introduced innovative fellowships with high standards in terms of qualifications, remuneration, and expected outcomes.

The big turning point for the AAUW's reform of the fellowship system and the creation of a new fellowship system was when the AAUW joined the International Union of Women Colleges (IFUW). The IFUW was conceived to create international fellowships for women researchers in its member countries. Virginia Gildersleeve (1877–1965) took office as the president of the AAUW in 1927 and transformed IFUW's ideas into AAUW's new fellowship system. To achieve that end, it was necessary to reorganize the AAUW, which until this point had only been a loose autonomous coalition of the regional branches scattered throughout the country, into a modern organization.

In order to procure its target of a 1-million-dollar fund, the AAUW headquarters divided the whole country into units, each responsible for fund-raising. When each unit raised \$30,000 of funding, a new fellowship program could be started.

The collection of the 1-million-dollar fund took much longer than the scheduled period and was eventually completed in 1954. However, this funding campaign made the members of the AAUW aware of the importance of fellowships. The funding campaign also gave a major leadership role to the AAUW during the interwar period.